

## 経験者採用試験 論文試験課題

### 1 一般事務職 A・B

近年、地球温暖化の影響とみられる気候変動がもたらす被害は深刻さを増しており、地球温暖化対策は世界共通の課題となっています。

2020年10月には、国は2050年までに温室効果ガスの排出量と吸収量を均衡させるカーボンニュートラル、脱炭素社会の実現を目指すことを宣言し、「地球温暖化対策はもはや経済成長の制約ではなく、大きな成長につながるという発想の転換が必要である。」との見解を示しています。

そこで、地球温暖化を巡る現状・課題を踏まえた上で、企業や家庭からの温室効果ガス排出を抑えながら持続的な経済発展を両立するために行うべき県の取組について、あなたの考えを述べなさい。

### 2 警察事務職 A・B

兵庫県警察では令和3年の運営重点として、「県民の安全を守る力強い警察」を基本理念に各種警察活動を推進しています。

それを踏まえて、安心・安全な地域社会実現のために必要な警察職員としての心構えと、どのようにしてあなたが警察職員として兵庫県警察に貢献できるか、あなたの考えを述べなさい。

### 3 教育事務職 A・B、小中学校事務職 A・B

これからの社会は、グローバル化がより一層進展し、今以上に人・もの・金・情報が国を越えて移動するとともに、ICTやAI等の情報技術の急速な発達に加わり、変化が激しく予測が難しい時代を迎え、教育に求められる人づくりも変わっていくことが予想されます。

そのため、「『未来への道を切り拓く力』の育成」を第3期「ひょうご教育創造プラン」の重点テーマとして、3つの基本方針（①「生きる力」を育む教育の推進、②子どもたちの学びを支える環境の充実、③人生100年を通じた学びの推進）を柱に、兵庫らしい教育を展開しています。

あなたのこれまでの経験を生かし、職員として兵庫らしい教育にどのように関わっていきたいか、本県の現状や課題を踏まえ、あなたの考えを述べなさい。

## 経験者採用試験 論文試験課題

### 4 農学職 A・B

(1) 本県では、都市近郊の立地を活かした農業の基幹産業化を実現するために、ICT等の先端技術を積極的に活用したスマート農業の普及・定着を図っています。

そこで、本県における農業の現状、課題を踏まえた上で、スマート農業を推進することにより期待される効果と、その普及・定着のためにはどのような取組が必要か、あなたの考えを述べなさい。

(2) 本県の農業算出額（令和元年度）は1,509億円で、そのうち畜産の産出額は569億円で37.7%を占め、京阪神都市圏における畜産物供給基地として重要な役割を担っています。そのような本県での畜産振興では、自給飼料生産や堆肥の有効利用など、耕種農家と畜産農家が連携する「耕畜連携」が重要とされています。

そこで、耕畜連携で期待される効果と、推進するうえでの課題を挙げ、これを解決するための具体的な方策について、あなたの考えを述べなさい。

（（1）、（2）の課題から1題を選択）

### 5 林学職 A・B

(1) 林野庁では、令和3（2021）年6月に閣議決定された「森林・林業基本計画」に基づき、森林・林業・木材産業による「グリーン成長」の実現を図るため、森林資源の適正な管理・利用を重要な政策的課題のひとつとして位置づけています。

そこで、現在の兵庫県（もしくは日本）の森林資源の現況や林業・木材産業の動向を踏まえ、森林資源の適正な管理・利用を図るための方策について、人工林資源の循環利用や担い手となる林業経営体の育成、林業就業者の確保・育成の視点から、あなたの考えを述べなさい。

(2) 近年、局地的に記録的な豪雨が発生する頻度が高まっており、山地災害があらゆる所で発生しやすい状況にあります。兵庫県では、山地災害から県民の生命・財産を守るため、地形・地質、溪流の勾配、活断層からの距離、森林の状況などの条件から、降雨や地震によって山地災害の起こりやすい地区を「山地災害危険地区」として位置づけ住民に公表しています。

そこで、兵庫県が県内に9,155箇所（令和3（2021）年3月31日現在）ある山地災害危険地区を公表する意義を説明するとともに、近年頻発する流木を伴う山地災害など（流木災害に限らず）に対して治山ダム、山腹工事、森林整備など山地の防災対策にどのように取り組んでいくべきかこれまでの県の取り組みも踏まえて、あなたの考えを述べなさい。

（（1）、（2）の課題から1題を選択）

6 総合土木職 A・B

- (1) 近年、全国的に激甚化・多発化する風水害や切迫する南海トラフ地震などの大規模災害に備えることに加えて、高度経済成長期以降に集中して整備された橋梁やトンネルなどの社会基盤施設の老朽化が進行しています。こうした中で、社会基盤施設が整備され、かつ、維持管理されてきた箇所での被害は小さく、社会基盤施設が未整備または整備途上の箇所では被害が大きかった事例が多数確認されています。

このため、兵庫県では「洪水」や「土砂災害」、「高潮」、「津波」、「地震」などの自然災害に備えた事前防災対策（河川や砂防えん堤、防潮堤の整備など）や、道路ネットワークの強化、老朽化対策など、ハード対策とCGハザードマップの普及や土砂災害特別警戒区域の指定、河川ライブカメラ等によるリアルタイム情報の充実など、減災のためのソフト対策に取り組んでいます。

ハード対策とソフト対策の取組内容とその効果を記述するとともに、技術系公務員の視点から、これらの対策を推進する上での課題と、その解決に向けた具体的な取組について、あなたの考えを要点をまとめて述べなさい。

- (2) 近年、局地的な集中豪雨が頻発しており、これまでの「河川下水道対策」だけでなく、雨水を一時的に貯留・浸透させる「流域対策」や浸水してもその被害を軽減する「減災対策」を組み合わせた「総合治水」に取り組むことが重要となっています。

農業用ため池は、かんがい機能のほか、多面的機能の一つとして、降った雨を貯留し下流の農地や農業用施設等への被害を軽減する洪水調節機能も有しており、ため池の洪水調節機能は農村地域の防災や減災力として期待されています。

ため池を活用した治水対策や留意点について、あなたの考えを述べなさい。

- (3) 平成 29 年の都市公園法改正により創設された公募設置管理制度（Park-PFI）について、制度を概説するとともに、行政側（公園管理者側）が Park-PFI 事業の公募の前に対応しておくべきことについて具体的に述べなさい。

（（1）～（3）の課題から1題を選択）

7 建築職 A・B

- (1) コロナ禍を契機として、人が密集する都市部での活動を控え、ローカル志向や住環境重視等により、地方回帰の動きが生まれています。

革新技術を駆使すれば、地方部でのゆとりと快適性が共存する新しい豊かな生活が得られるなど、地域の特性に応じたまちの魅力や活力の創造により、東京一極集中に歯止めをかけると期待されています。

そこで、兵庫県に地方回帰を呼び込むまちの魅力・活力の創造に向け、どのようなまちづくり施策が必要か、あなたの考えを述べなさい。

- (2) 気温上昇や海面上昇などの気候変動を受けて地球温暖化対策の取組が進行する中、世界各国で 2050 年カーボンニュートラル宣言が打ち出され、電気自動車(EV)や再生可能エネルギーの導入など社会全体で脱炭素化を目指す動きが加速しています。

そこで、脱炭素社会に向けた住宅・建築物における省エネ対策のあり方・進め方について、あなたの考えを述べなさい。

- (3) 年々増加する空き家について、兵庫県では空き家の発生予防、利活用、適正管理の3つの観点から総合的な空き家対策に取り組んでいます。

そこで、空き家の現状と課題について考察の上、今後特に取り組むべき空き家対策の視点とその方策について、あなたの考えを述べなさい。

((1)～(3)の課題から1題を選択)

## 8 機械職 A・B

- (1) 兵庫県では、県有施設の整備を通じて良好な施設環境の創出と安全・安心な施設づくりを推進しており、営繕部局が施設整備主管部局と協力しながら、企画・立案から基本計画、基本設計及び実施設計、さらに工事監理に至るまで一貫した業務を行っています。

そこで、今後の県有施設整備について、「環境に配慮した施設づくり」「人にやさしい施設づくり」「県有施設の有効活用と災害に強い施設づくり」の3つの設計コンセプトの観点から、建築設備の専門技術者として、どのような取組が必要か、あなたの考えを述べなさい。

- (2) 「エネルギーの使用の合理化等に関する法律（省エネ法）」では、工場等の事業場の設置者や輸送事業者・荷主に対し、省エネ取組を実施する際の判断基準を示すとともに、一定規模以上の事業者はエネルギー使用状況等を報告することとなっています。また、エネルギー使用者への間接規制として、機械器具等の製造者等を対象に機械器具等のエネルギー消費効率の目標を示して達成を求めています。

また、地球温暖化対策として、政府は2020年10月に「2050年カーボンニュートラル宣言」を発表し、2050年までに脱炭素社会の実現を目指して、2030年度において温室効果ガスを2013年度から46%削減する中期目標を掲げています。

このような社会の状況を考慮しながら徹底した省エネルギー社会の実現に向けて、業務その他、家庭、運輸、産業、エネルギー転換部門のうち2つの部門を選んで、多面的な観点から今後取り組むべき技術課題を抽出し、その課題に対する解決策を述べなさい。

- (3) 県庁舎、県立学校、警察署、文化施設などの県有施設は、県民生活を支える重要な基盤ですが、厳しい財政状況の中で老朽化の対策が課題となっています。

兵庫県では、施設寿命の延伸と中長期的なトータルコストの低減を図るため、適切な維持管理の一環として、建築設備については予防的・周期的な修繕である「計画修繕」を実施しています。

そこで、この「計画修繕」について、老朽化の現状・課題を示したうえで、計画的・効率的な対策について、あなたの考えを述べなさい。

- ((1)～(3)の課題から1題を選択)

9 電気職 A・B

- (1) 兵庫県では、県有施設の整備を通じて良好な施設環境の創出と安全・安心な施設づくりを推進しており、営繕部局が施設整備主管部局と協力しながら、企画・立案から基本計画、基本設計及び実施設計、さらに工事監理に至るまで一貫した業務を行っています。

そこで、今後の県有施設整備について、「環境に配慮した施設づくり」「人にやさしい施設づくり」「県有施設の有効活用と災害に強い施設づくり」の3つの設計コンセプトの観点から、建築設備の専門技術者として、どのような取組が必要か、あなたの考えを述べなさい。

- (2) 「エネルギーの使用の合理化等に関する法律（省エネ法）」では、工場等の事業場の設置者や輸送事業者・荷主に対し、省エネ取組を実施する際の判断基準を示すとともに、一定規模以上の事業者はエネルギー使用状況等を報告することとなっています。また、エネルギー使用者への間接規制として、機械器具等の製造者等を対象に機械器具等のエネルギー消費効率の目標を示して達成を求めています。

また、地球温暖化対策として、政府は2020年10月に「2050年カーボンニュートラル宣言」を発表し、2050年までに脱炭素社会の実現を目指して、2030年度において温室効果ガスを2013年度から46%削減する中期目標を掲げています。

このような社会の状況を考慮しながら徹底した省エネルギー社会の実現に向けて、業務その他、家庭、運輸、産業、エネルギー転換部門のうち2つの部門を選んで、多面的な観点から今後取り組むべき技術課題を抽出し、その課題に対する解決策を述べなさい。

- (3) 県庁舎、県立学校、警察署、文化施設などの県有施設は、県民生活を支える重要な基盤ですが、厳しい財政状況の中で老朽化の対策が課題となっています。

兵庫県では、施設寿命の延伸と中長期的なトータルコストの低減を図るため、適切な維持管理の一環として、建築設備については予防的・周期的な修繕である「計画修繕」を実施しています。

そこで、この「計画修繕」について、老朽化の現状・課題を示したうえで、計画的・効率的な対策について、あなたの考えを述べなさい。

- ((1)～(3)の課題から1題を選択)